



神奈川県環境学習リーダー会 会報 No. 55

2007年
2月 3月

総会案内..... 1	ケナフ部会..... 6	ついて..... 11
役員会報告..... 2	自然環境部会..... 7	会員の広場
第13回市民環境活動報告会 に参加して..... 3	大気環境部会..... 8	京都議定書発効二周年に思 う..... 12
第5回地域懇談会に参加して..... 3	水環境部会..... 9	CO ₂ 免罪符が出回る日は来 るのか?..... 12
基礎実践研修に参加して..... 4	廃棄物 GO3 部会..... 9	リレー登場
神奈川県グリーン教育実施報 告..... 4	グリーン部会..... 9	環境の優先課題は?..... 13
グリーン教育報告 グリーン 部会..... 5	地域サポート部..... 10	思いは、「地球」しかし、実 際は「足元」から..... 13
部会報告	神奈川県グリーン教育支援シ ステム..... 10	掲示板..... 14
エネルギー部会..... 5	平成18年版かながわ環境白書 -わたしたちの環境-..... 10	編集後記..... 14
	欧州化学物質規制 REACH に	

神奈川県環境学習リーダー会 平成19年度総会開催のご案内

代表 安丸 元一

気候変動のせいでしょうか、寒暖の差が激しい日々ですが、ご案内のころはCO₂吸収も活発になりつつある新緑の時期でしょう。

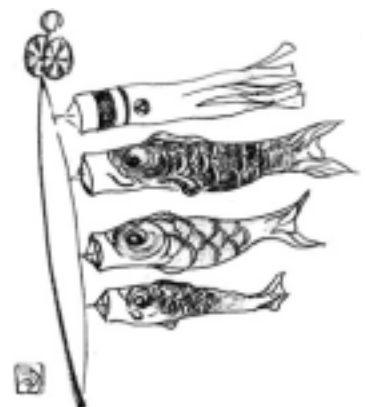
さて、平成19年度の神奈川県環境学習リーダー会総会を下記の通り開催します。

ご承知の通り、世の中は地球温暖化をメインに地球環境問題が毎日のようにメディアに取り上げられ、我々の活動の重要性が一段と強くなりました。また当会の置かれた状況も大きく変わりつつあり、これらに対処するに相応しい総会にしたいと存じます。ご多用でしょうが、是非ご参加いただき当会の行く末をお決めいただきしたいと思います。

なお、やむをえないご都合で、ご出席願えない場合につきましては、書面にて委任または議決権を行使することができますので、「総会資料」をご参照の上、事務局宛に4月30日までにご返送くださいます様、お願いします。

記

1. 総会開催日時 平成19年5月12日(土) 13:00~15:00
2. 総会開催場所 神奈川県環境科学センター2階会議室
3. 議題
 - 第1号議案 平成18年度 事業報告承認の件
 - 第2号議案 平成18年度 収支決算報告、監査報告承認の件
 - 第3号議案 平成19年度 事業計画案承認の件
 - 第4号議案 平成19年度 予算案承認の件
 - 第5号議案 NPO法人格取得の件
 - (1) 法人格取得に関する経過報告
 - (2) 法人格取得の手続き、取得後の組織案承認の件
 - (3) 設立趣意書案承認の件
 - (4) 定款案承認の件
 - 第6号議案 平成19年度役員選出の件



第3号議案でNPO法人格取得が可決された場合には、引き続きNPO設立総会(議案:上記第3号~6号議案ほか)を開催します。

これら総会終了後は、県環境科学センター所長を始め、日頃お世話になっている同センター職員

をお招きし、親睦会を予定しております。皆様の楽しい交流の場となれば幸いです。

1. 親睦会時間 16:00～18:00
2. 親睦会場所 リビエラホール Tel 0463-21-6311 (平塚駅ビル ラスカ6F 屋上)
3. 会費 3,000円

役員会報告 (事務局長 大森 勝)

2月役員会 (2月8日)

1. 確認事項
会員数 正会員 179名 (新入会員 正会員 1名
賛助会員 1名、退会 1名) 合計 190名
2. 付議事項
(1) NPO 関連
定款案: 1部修正のうえ承認された。
細則については、NPO 設立後に決定する。
(2) 横浜市 150 万本植樹行動参加登録
当会として本行動計画に参画する。
(3) 当会収支状況 (19.2.7 現在)
現状が事務局長より報告された。
各部・部会の会計報告を3月20日までに提出
する。
(4) 各部会の来年度計画・予算
2月15日の臨時役員会で審議する。
(5) 夏休み子ども環境体験教室の参加団体の募集
2月15日の役員会で決定し、KERC に報告す
る。
(6) 第13回市民環境活動報告会
2月18日開催であり、参加協力の依頼が担当
より要請された。
来年度の同報告会については、予算化も含め早
期に検討を進めてゆきたい。

2月臨時役員会 (2月15日)

1. 確認事項
正会員 180名 (新会員 1名入会) 賛助会員 7
名 特別会員 3名 合計 191名
2. 付議事項
(1) 各部会 H19 年行動計画、予算
5部・部会より提出された計画により、活動内
容も含め審議された。
未提出4部会の計画が提出された後、全体の来
年予算を決定する。
(2) 18年度決算状況
事務局より見通しが報告された。
(3) “アジェンダの日作成資料” 管理要領
一部修正のうえ当会ホームページに掲載するこ
とにした。
(4) ホームページでの各部紹介
提出期限が過ぎているので、未提出部は至急提
出すること。
(5) 19年度夏休み子ども環境体験教室

7グループより応募があり、KERC に提出する
ことにした。

- (6) NPO 法人化の件
定款(案)を一部修正し2月17日説明会用資
料とした。
- (7) その他
・19年度も横浜市市民共同オフィスの使用が許可
された。

3月役員会 (3月15日)

1. 事項確認
会員数 変更なし(正会員 180名、合計 191名)
2. 付議事項
(1) 18年度決算
(2) 19年度予算
(3) 新役員
・退任予定役員がいるため、新役員候補を鋭意人
選中。
(4) 第6回「親子で楽しむ環境展」
実行委員会で、体験的催し物案およびレイアウト
案を決めたとの報告があった。
(5) H19 年度夏休み子ども環境体験教室
5件(ソーラークッカーを作ろう、節電コンセ
ントを作ろう、古紙の紙管で写真立てを作ろう、
ケナフを使った葉書を作ろう、二酸化炭素は悪い
ものなの?)を実施するとの連絡がKERC よりな
された。
(6) H19 年度横浜市協働事業申請
グリーン部会より申請を検討中。
(7) NPO 神奈川県環境学習リーダー会設立総会
関連
・現K・リーダー会総会式次第
・NPO 神奈川県環境学習リーダー会設立総会次
第
・NPO 取得後の組織・運営と手続き〔案〕
上記案が配布された。
(8) 地域の環境フェアへの参加
相模原、藤沢に参加してはどうかとの提案があ
ったが、藤沢については参加を検討することとし
た。(PRTR 関連)



「第13回 市民環境活動報告会」に参加して

首都大学東京大学院 土屋 俊幸

2月18日に行われた「第13回 市民環境活動報告会」に参加しましたので、その感想を簡単に述べたいと思います。

非常に多くの市民が参加しており、すばらしいものだと感じました。実際に活動を行っている人だけではなく、環境に興味ある多くの人に環境保全活動をアピールでき、人を繋げる機会になっていると思います。内容に関しても、水や里山といった自然からゴミ問題や環境学習などまで多岐にわたる分野の発表があり、多くの人が様々な環境活動を行っていることをあらためて知ることができました。

ただ、若い年齢層、特に学生がほとんどいなかった点が今後の課題かと思えます。近年、環境を扱う

学部・学科が増えてきているので、そういったところへのアピールが必要かと思えます。

発表について、私は大学での研究内容を発表したのですが、大学とは異なり、「なま」の意見をいただけて非常に有益でした。そこで提案ですが（会のタイトルと異なってしまいますが）、企業（環境配慮製品や企業活動）や市町村（環境課の施策の紹介）、研究者（学生の卒論など）のポスター発表を毎回1件ずつつくらんでも行うのはいかがでしょうか？普段とは別の視点からの意見交換が行われ、双方の環境保全活動の発展につながると思います。特に学生は学会やゼミなどでの発表がほとんどであるため、せっかくの地域の研究が地域に還元されないことが多いように感じられます。

最後になりますが、実行委員の皆様、発表者の皆様お疲れさまでした。これからもよりよい報告会が続けていきましょう。



（撮影：安藤絃史氏）

『第5回地域懇談会』に参加して

14期生 熱海 宗信

去る2月8日（木）相模原市の「ソレイユ相模原」に於いて『第5回地域懇談会』が開催されました。（私が最も関心を引かれる会であります。）安丸代表はじめ、多数の役員のご出席がありました。市内から荒谷さん・小田さん・坂本さん・小泉さん・北村さん・小林さん・安部さん・熱海の8名の方が参加されました。

まず、「相模原環境情報センター」の小泉様から施設の概要・これまで（10ヶ月間）の活動の報告がありました（私も月に2回くらい訪問しております）。リーダー会で当施設の活用策があってもよいのでは

ないかとも考えております。次いで、坂本勇夫様（省エネ普及指導員）から「自然エネルギー・太陽光発電普及活動の苦心談」をお聞かせいただきました。そして、古澤正文様（REWOOD クラブ）から「REWOOD 工房の活動状況」の報告をお聞きしました。（私の所感は、2月9日のYahoo-MLで……）最後に役員と講師の方々とのフリートークがございました（これは入会したばかりの14期生の私にとりまして、同好の先輩諸氏の何とも言えない楽しいひと時でありました）。ありがとうございました。その後、3月11日に新相模原市の合併が発効致しました。

	旧相模原市	新相模原市
面積	90,4k m ²	244,03k m ²

倍率	1	2.7 倍
人口	631 千人	705 千人
広さ		県で 2 位・10%の広さ (1 位は横浜市)
地形	相模川・境川に 挟まれた相模原台地	丹沢山地から 道志川・早川を加え 相模湖・津久井湖を 擁する山地・丘陵・台地

市在住の K・リーダー会員は 10 人足らずです。

『基礎実践研修に参加して』

上田 恵一（横浜市）

私は日程の都合で第 1、2 回を合せて講座を終了する事が出来ました。講習を終えて感想めいた事を求められ、僭越にもコメント申し上げます。

これを運営された皆様の情熱がひしひしと感じられ、感激いたしました。

物事を普及させる時、対象者 (stakeholder) に対して情熱 (passion)、時流 (fashion)、アメ (treat) と意義 (sense)・正当性が必須です。

『グリーン購入』は日本の法律名が《理解しづらい日本語》です。

関係者のご苦勞の程お察し致します。実施例の紙芝居は、其の中味と目的を納得させてくれました。ネーミングの悪さが普及の足を引っ張って居ります。公式活動名を『環境配慮の購買』とかにすれば解り易い。しかし(憶測ですが)多分このネーミングは経産サイドの反対が予測されます。

ワークショップについて：《限られた時間内に結論を出させる訓練》と理解していたので納得はしました。しかしこれが講座で学んだことに対する受講生の理解度深化の為の場と捉えるなら、異論があります。逆に、当講座中にその様な場が欲しかった。(蛇足参照)

個別ワークショップの発表を聞いてオコガマシイですがコメントは

《エネルギー問題》: 国民はこの運動を推進すれ

神奈川県グリーン教育実施報告

エネルギー部会 二村 荘司

神奈川県グリーン教育システムのもと、エネルギー部会は 1 月に川崎市内の小学校に於いて「地球温暖化問題とエネルギー」の環境教育を実施、3 年生

地球環境を考えますと、この広大さは市内の会員だけで取り組める程生易しい状況にはありません。各部会に所属されている会員皆さんが、『地域活動サポート部』に同時に席を置くスタンスが必要ではないかと提案いたします(既にそうなっているのかも知れませんが)、この体制が組めれば、『新治市民の森』の情報偏りは防げると思いますし、それは同時に K・リーダー会としての組織一体感が更に醸成されることが期待できると考えます。

ば、「温暖化対策は何とか成り安心出来るのか、何が不足か」の切込不足。 アメ (treat) と意義 (sense)

《環境問題》: 今自分達で出来る範囲でとの結論から、身近の樹木育成に絞り込みましたが、前述と同様、国民運動が、欧州の様に何故適切な法律制定まで至らぬかの国民性への議論も有ったと思います。

《GPN 問題》: レクチャーで提示されたドイツと日本の「国民意識の差は何に原因があるのか」議論すれば、今後の進め方で面白い対策が出るのではと感じました。

講座初日、自己紹介を兼ねた『市民に訴える、15 分スピーチ』は良い企画だと思いました。

更に事前に趣旨を徹底させ、PR のみならず、この推進運動への疑問点も訴えてよい内容にすれば、この講座をより深化させると思いました。

【蛇足 = 私見】: で取上げましたが、この運動が国民の流れと成る為には、危機感を盛り上げるだけでは無く『この対応策をすれば何とかなると期待感・安心感を与える = 《アメ (treat) と意義 (sense)》』が必要です。

京都議定書を中心とする 日本政府の温暖化対策 = エネルギー対策の根本的弱点は期待感・安心感を持ってない所にあります。

《市民の皆さんとの間に入って PR 活動をする我々》にその疑問に対して危機感を煽るよりも、この講座で期待・勇気を与える何かの事例紹介が欲しかった。

児童 87 名が参加し、風力発電・太陽熱利用のソーラークッカー・太陽光発電・燃料電池の新エネルギーの実験と体験で授業が始まった。各班に分かれて、児童達は交代で働きと作業を興味深く体験した。そして、なぜ我々がエネルギーの実験をするのかを理解してもらうために西暦 2100 年までの地球大気温暖化の予測映像を見せた。現状で推移すると、児童

たちが大人に、親になる頃に地球の状態は悲観的であることを、映像は予想している。これを防止するための重要な行動の一つとして省エネルギーがある。そのための実験として、家電品の待機電力、各種照明灯の電力効率、手回し発電機の実験を体験した。最後の授業として、再生可能な自然エネルギーの太陽光発電に接するために、それを利用した電子オルゴールの組立作業を各児童がおこなった。ドライバーでのねじの取り付けや、配線の作業で困っ



ている児童に、他の児童が自発的に手伝ったり協力して作業をしていた、物を作ることがとても楽しそうに感じた。完成したオルゴールを窓際で太陽にかざして、お互いに音を聞き合っ

て賑やかだった。今日の授業の中で、児童が実際に触って動かして体験した、手持ち微風風力発電機や手回し発電機の実験が楽しかったと感じた児童が多数みられた。

本教育実施にあたり、教材・教育プログラムの提供は NPO 法人アース・エコの協力をいただいた。

「グリーン教育報告 グリーン部会」

グリーン部会 鎌田 裕二

グリーン部会では、1月に平塚市内の小学校2校でグリーン教育を行った。

1月に実施ということもあり、導入ではお雑煮の話をした。参加児童それぞれの出身地を反映し、その種類は多様である。授業の開始はグリーン部会お手製の紙芝居「冬のかいもの」の披露である。食べ物の旬、産地、そして収穫への感謝、買い物時の包装を扱った紙芝居である。途中でクイズが挿入される。「温室栽培のトマトは旬の露地栽培に比べてどれくらいエネルギーを余計に使うのか?」「日本人は一日に何枚のレジ袋を使うのか?」といった質問が続く。後半は、誕生日会のための買い物を班に分かれて体験してもらい買い物ゲームを実施した。買い物には、旬、すなわち真冬の赤々としたトマトは旬でないこと、包装の程度、産地からの距離、等を実感してもらいながら、買い物を終える。買い物を入れるのはレジ袋でなく、もちろん持参したマイバッグ。各班からの買い物時の選択とその理由を発表してもらった。

児童たちは紙芝居の内容を理解し、買い物ゲームをこなした。子供たちが学んだことを実社会で実践できるかは今の大人の責任であると思う。環境問題

の深刻化の速度は、子供たちが大人になるまで待てない程度に速い。我々大人たちが子供への見本となる消費行動をするしかないと感じた。

グリーン部会では「買い物が社会を変える。そして環境を守る」ことを念頭におき今後も同様の授業を行いたい。



部会活動

エネルギー部会

部会長 安藤 絃史

18年度活動報告

次の点を重点に活動した。

スキルアップの為の情報交換

定例会または見学会を毎月実施(12回)

情報交換のテーマは各会員の活動報告からスターンレポートまで幅広く及んだ。色々な分野で活躍している部員ばかりなので、相互の啓発となった。省エネ生活の率先垂範

その成果については集計中。後日、報告します。

啓発活動

親子で楽しむ環境展、子ども環境体験教室、グリーン教育については小田小学校で「気づきから始め、行動へ導く」のコンセプトのもとに、NPOアース・エコの協力を得て実施。

いずれも子どもたちの目の輝きが印象的であった。その他、アジェンダの日、カーフリーデーに一部門として参加。

新規会員

昨秋、7名の方が新規に入部。内4名の方には熱心に活動していただいている。

19年度活動方針

リーダー会事業への積極的参加

(リーダー会のNPO法人化に対応すべく)

スキルアップの為に相互啓発と見学会を継続実施。

省エネ生活の率先垂範とその成果の活用

活動予定('07年1月~3月)

定例部会(於:県民サポートセンター)

4月10日(火) 13:10~15:00 602号室

5月8日(火) 13:10~15:00 602号室

6月12日(火) 13:10~15:00 602号室

活動報告(19年2月~3月)

2月度定例部会:

2月13日(火) 13:00~15:00

場所:県民サポートセンター 602号室

参加者:岩沢、大森、小田、鎌田、二村、安藤、

来年度予算案審議

親子で楽しむ環境展

実演中心となることが予想されるので、効果的出

展内容につき話し合う。

情報交換

スターンレポートとその利用方法について。

3月度定例部会:

3月13日(火) 13:00~15:00

場所:県民サポートセンター 602号室

参加者:児玉、野村、大森、鎌田、二村、安藤

来年度の啓発活動行事の確認

会員報告

野村さんより「太陽光発電ネットワーク」の紹介と太陽光発電普及のための課題

新規購入教材披露

手回しヘリコプターのデモ

夜の日本地図

新年度の役員(継続)

部会長 安藤紘史

会計 中島信久



東京電力横浜火力発電所見学後の質疑風景

ケナフ部会

ケナフ部会長 荒谷 輝正

環境科学センター及びK・リーダー会のご協力と支援を得て、ケナフ部会の活動も1999年発足以来、9年目に入りました。環境科学センターの隣地を本年も利用させて頂く予定で準備を進めています。今後とも地球環境の改善という共通の目標に貢献出来ればと決意を新たにしています。

本年度も昨年同様、K・リーダーとして各々の地元でリーダーとなり、地域同士の連携をはかり、環境科学センターを利用させて頂き、更なる研修を図っていきたくと考えています。

平成18年度の活動総括

昨年度は下記の方針で活動して参りました

1.各地で催す展示会に積極的に参加しました。

6月のK・リーダー会主催の環境展、7月、8月環境科学センター主催の「子ども環境体験教室」に参加致しました。

2.各地でのケナフ紙漉きに協力していきます。

横浜市、藤沢市、平塚市、相模原市、等で実施致しました。

3.更なる研究活動及び講演会などで研鑽しました。

18年度は従来から交流のある日本ケナフ開発機構(理事長 釜野神奈川大学名誉教授) 非木材紙普及教会などと交流しました。

平成18年も環境科学センター野崎さんの斡旋で地元の農家から耕耘機を借用しましたので作業は比較的楽になり、土も細かく耕せましたが堆肥不足を

感じましたので、18年度は堆肥を多めに入れました。
4. 本年度から相模原市に工房をお持ちの、第一期の古澤さんの御支援により、6月の「親子で楽しむ環境展」において100%リサイクル用紙を使った「貯金箱工作」を実施し好評を得ました。

平成19年度方針

平成18年度に引き続き

1. 環境科学センターの圃場を利用した、ケナフの栽培研究及びケナフ教室を開催の際の材料供給をします。

また、耕耘機を利用して土を細かくする事により、堆肥は農家に頼んで今年も入れて土地改良致します。

2. K・リーダー会、環境科学センター主催のイベントに協力して行きます。

6月の環境展覧、7月、8月の環境科学センター主催の「子ども環境体験教室」にも積極的に協力していきます。

3. 各地でのケナフ紙漉き等の協力要請があれば協力していきます。

今後、学校等で要望が増えると思われるので出来るだけ、協力出来るよう更に資料、道具等を揃えて行きます。

4. 地域でのケナフ部会の結成に協力していきます。

K・リーダーが各地で開催される場合には協力していきます。

5. 更なる研究活動及び講演会を開催します。

平成15年は工場見学、16年は山梨県南巨摩郡中富町西島383「なかとみ和紙の里」、17年は埼玉県比企郡小川町の紙工場を見学して紙漉等の研鑽をしましたが、本年度も実施する予定です。

6. 紙管(リサイクル用紙)を利用した工作作り

K・リーダー会第1期の古澤さんが主宰されている相模原市にある日本化工機材株式会社の工房、「REWOOD」をK・リーダー会で活用したらどうかとの話があり、ケナフ部会の活動に加えることを役員会で了承を得ました。K・リーダー会員の方で材料が欲しい方には出来るだけ便宜を図りたいと思いますのでご相談ください。

なお、お願いですが、ケナフ部会に活動が増して

自然環境部会

部会長代行 内藤 克利

18年度自然環境部会の活動

当部会活動は静止状態であったが、3月3日神奈川県自然保護協会主催の学習会に4名の部会員が参加し、松田、曾我梅林、小田原、湘南平等の現地にて地殻変動の結果を実体験した。詳細は追って報告

しますが、それをこなすには部員が少なすぎますので、興味のある方が居られましたら是非入会してください。

活動報告

ケナフ部会員が携さわった2月~3月までの活動及び4月~6月迄予定について報告します。

1. ケナフ部会定例会

2/1 2月18日開催の市民環境活動報告会の為のポスターセッション用パネル打合せ及び次年度のスケジュール検討

2/18 第13回市民環境報告会でポスターセッション参加 有益な情報・アドバイスを頂いた。

3/27 環境科学センター圃場の耕運を実施

2. 対外的な活動

3月21日 平塚市リサクルセンターで100%再生紙を使った「小物入れ教室」開催

(K・リーダー会の柳川三郎さん、斉藤美代子さんが平塚市リサクルセンターの運営委員という事でご紹介いただき実施した。)



小川さんの指導風景



立派に出来た小物入れ

3. 今後の予定

4月24日 ケナフ部定例会 ケナフ種蒔き

5月 ケナフ部定例会 圃場の管理及び環境展準備

6月3日(日) 第2回相模原環境まつりに参加

6月16日(土) K・リーダー会主催「親子で楽しむ環境展」参加

するが、浅間山、富士山、箱根等の噴火に伴う地形の変化があったこと、地形の変動等から活断層が生まれたこと、数千年以内に起こりうる災害の予測等全て未知の世界であったが、今後の海岸線の変動、土地の隆起等から考えられる事柄を過去のデータから調査活動を行っていることについての知見を得た。松田北断層、国府津~松田断層などは今後の注目地区である。

今後の自然環境部会活動は、もっと視野を広げることを念頭に置くことが必要となる。

3月20日、登録部会員18名中6名が出席して部

会を開催して、土屋俊幸氏が会長業務を勤めることになった。19年度からとする。

大気環境部会

部会長 猪股 満智子

平成18年度総括

大気環境保全のための6月、12月のNO₂一斉測定と従来の自然度調査に加え、新しい大気環境情報に留まらずに地球温暖化情報、揮発性有機化合物情報にも挑戦し、自ら学ぶことから、多角的に環境問題全般について捉えられる部会に育ってきました。ただし、部会員数が大勢であることと、課題テーマが広がっていくことから、役割分担とプロジェクト方式を導入した結果、効率よく学習できるため高度になり、参加部会員に偏りが生じ、全員への共有が難しくなっている点が懸念されます。

NO₂測定

部会員個人の判断による測定点調査方式を改め、18年度から測定点を精査、整理統合して各自治体共通地点を洗い出し、MANDARA ソフトを活用したマップデータによる推移、比較をすると同時に、行政による常時監視局データとの比較マップ化にも挑戦し、ホームページ化も試みました。

VOC/PRTR プロジェクト

18年の規制開始に伴い、6月VOC・PRTRプロジェクトを立上げ、インターネットを活用して身近な環境にも配慮してもらえるよう市民生活に着眼点をおいたデータ化を試みました。

自然度調査

部会内では調査参加者の固定化の反面、新チラシによる呼びかけに情報をお寄せいただいた会員もおられ感謝いたします。自然の場合は県全域的網羅が難しく、マップデータとしての価値が見出せずに終了することにしました。ただし、調査参加者には価値ある学習となり、今後は手法を地域で活用していくことが望まれます。

その他の活動

環境教育； 県環境科学センター「子ども環境体験教室」「環境教育支援講座」、小学校への講師派遣

環境学習； 独立行政法人環境再生保全機構の環境教育事業アドバイザー、かながわアジェンダ推進センター「テーマ別専門研修」講師、「地球温暖化防止の集い」事例発表と運営役、県環境保全推進会議実践行動部会で“そら”の指標策定

展示発表；6月環境展、9月よこはまカーフリー

デー、10月アジェンダの日2006、2月市民環境活動報告会ポスターセッション

平成19年度方針

大気汚染のみならず、地球温暖化防止の観点からも、県との連携によるNO₂測定（各地が共通地点をもった）の広がりや新地図ソフトの高度活用、さらにPRTR データを活用したリスク評価をすることから、行政の補完と自らの環境学習、そして市民への環境教育を進めます。

自然系調査については、新しく簡単な手法でより大勢の方々から情報を寄せていただけることを期待し、「気候変動を見守ろう」の表題でマップデータ化、ホームページ化を試みます。

活動報告

2月20日(火) 自然度調査総括と新調査検討

3月1日(木) 新年度に向けての検討

他に県環境保全推進会議実践行動部会指標策定作業4回出席、(独)環境再生保全機構アドバイザー会議と現地視察に3日間稼働

3月2日10:00~12:00 横浜子ども科学館事業の打ち合わせ

活動予定

4月7日(土)13:30 鎌倉駅西口改札集合

大気指標生物ウメノキゴケ類観察等の後
15:00~NPOセンター鎌倉で部会開催

5月26日(土)13:00~16:30 KERC 学習室・実習室 学習会、部会、NO₂測定準備

6月7日(木)夕~8日(金)夕の24時間測定

6月17日(日)13:00~16:30 KERC 実習室
NO₂分析



水環境部会

部会長 齊藤 昭一

1、平成18年度は、前半はコモチカワツボ、フロリダヨコエビを中心とした外来種の調査に専念しました。後半に入って酒匂川中心にエビ、カニ類を中心とした「川の連続性」についての調査を開始しました。

2、平成19年度の活動は昨年に引き続きエビ、カニを中心とした「川の連続性」についての調査となります。但し今年は新たに相模川が加わり酒匂川と二つの河川の調査となります。

3、本年の前半(4月5月6月)酒匂川を中心とした活動となります。特に4月は21日(土)AM9時、

JR 鴨宮 海岸側、集合です。

4、平成19年2月24日(土)環境科学センター学習室、15時より石綿専門研究員を招いて部会を開催しました。これには安丸代表、齋藤美代子氏もオブザーバで出席してくれました。部員の参加者は杉崎、古谷、近藤、柳川、猪俣、石田、田村、齋藤の各氏でした。石綿氏より「川の連続性」の調査の重要性、意義についての貴重なお話しがありました。・・・課題として4月19日までに親と子の環境展に何を持って参加するか?の答えを持っていくこと。特殊な活動のため説明しにくい部分があるので不参加もやむを得ないとの意見もありました。

廃棄物GO3部会

部会長 原園 信夫

18年度活動総括

廃棄物GO3部会として2年目が経過しました。

1. 県内37市町村のごみ分別カレンダー収集と分析

カレンダーを収集し、その形態を分析するとともに、県が発行する「一般廃棄物の概要」から見える一人当たりの処理量などを分析し、減量化の度合いについて検討しました。

収集・分析も6年目に入り、市町村のごみ分別の変化が数字として現れ始めました。

2. 環6号の発行

今年も環境月間の6月に「環6号」を発行、市町村の廃棄物窓口に郵送し、廃棄物の現状を訴えました。

3. 神奈川県環境科学センターが実施する【子ども環境体験教室】に「ソーラークッカーをつくろう」

で参加し、ゴミの3Rや、環境マークについても教えました。

また、人数制限で落選した人へのフォローとして部会で同じ体験教室を実施しました。

4. K・リーダー会の「親子で楽しむ環境展」に「県内廃棄物の現状」を展示し、ごみ減量をアピールしました。

19年度活動計画

1. 県内37市町村の「ごみの出し方」カレンダーの収集と分析を継続します。

2. 各種環境展に協力出展していきます。

3. 学習プログラムとして、「ソーラークッカーと太陽エネルギー」「3R学習」「買い物ゲーム」などこども対象の環境教育の勉強会を実施していきます。

4. 会報誌「環」の発行を行います。

グリーン部会

部会長 杉山 陽絵

平成18年度総括

活動2年目となった18年度は、紙芝居の活用、大人向けのプログラムの開発を中心に活動を進めてきました。地球温暖化防止活動推進員研修、スーパーと地域自治会の協力を得た学習会の開催、グリーン教育支援システムを活用した小学校での授業の実施など、活動の幅を広げることができました。その中には、部会員の長年にわたる地域とのつながりがあってこそ実現できたものもあります。活動を広げ

ていくためには、環境だけにとらわれず、様々な地域活動を通じて身近な地域とつながりをつくっていくことも大切な要素だと実感した年でもありました。また、講座の講師を依頼される機会が何回もあり、活動の励みとなりました。

平成19年度活動方針

1. 学習プログラムの充実

2年間の経験を活かし、子ども向け、大人向けのプログラムの内容を充実させ、プログラムの「道具セット」をつくり、プログラムの実施依頼があれば、いつでも、どこでもすぐに対応できる体制をめざします。

2. 他団体とのつながりをつくる

地域小売店等と連携した学習会の実施や、生産者との交流など、他団体とのつながりを作っていくことをめざします。

<活動予定(4月、5月)>

学習プログラムの充実に向けた「道具セット」づくりの検討を行います。興味のある方は、ぜひご参

加下さい。なお、ミーティング日はお問い合わせください。

<活動報告(2月、3月)>

2/18 市民環境活動報告会にて、部会活動を報告
3/7 磯子消費生活推進員 グリーン購入の学習会を実施

地域サポート部

部会長 香川 興勝

平成 18 年度活動結果報告

地域活動サポート部は、地域懇談会(2回)および施設見学会を開催して、県下に分散している会員の親睦をはかるとともに、情報の交換、ネットワーク化および専門知識・技術の向上に努めた。

平成 17 年 7 月から地域懇談会を県下各地で開催して、開催地域に在住する会員に出席していただき、活動内容の紹介や本会発展のための建設的な意見を拝聴するとともに親睦をはかっています。

今年 2 月に開催した、相模原地域での懇談会には地域の会員 8 名の参加があり、この地域懇談会の趣旨が少しずつ会員間に浸透してきた感じがした。

平成 18 年度の主な実施事項は次の通りです。

1. 地域懇談会の開催 - 詳細は会報をご覧ください。

第 4 回: 11 月 14 日(火)横浜市かながわ県民センター

第 5 回: 2 月 8 日(木)相模原市・ソレイユ相模原

2. 施設見学会 - 詳細は会報をご覧ください。

第 3 回 : 11 月 7 日(月) 10 時~15 時

新日本石油精製(株)根岸精油所 午前

東京ガス(株)根岸工場 午後

平成 19 年度活動計画

今年度から地域の環境イベントに、リーダー会の会員が参加して交流を深め地域・地域の良さを自分達の活動に入れていけるような企画を考え・実行してみたいと思っている。その他は、概ね平成 18 年度に準じて実施する予定。

地域懇談会は横須賀、秦野、綾瀬、平塚などを候補として検討する。また、施設見学会は海洋研究開発機構横浜研究所などを予定しているが、各方面の方々のご意見をえて決めていきたいと思っている。

会員の皆様のご協力・参加を宜敷くお願いします。

= 豆知識のページ =

神奈川県グリーン教育支援システム

グリーン部会、エネルギー部会 鎌田 裕二

神奈川県は平成 17 年度より「グリーン教育支援システム」を創設した。その目的は学校を中心に企業と行政が連携し、家庭及び地域に対して、グリー

ン購入に関する知識及び情報の普及を図るとともに、そうした取組を行う学校の環境教育及び環境保全活動に対して支援を行うことである。掛かる費用には環境配慮活動に取り組んでいる企業の広告を、神奈川県ホームページ「かながわの環境」(URL)に掲載し、その広告収入を原資とする。

平成 17 年度は、県内小学校 9 校で出前授業を実施。うち 3 校は K・リーダー会部会が担当した。平成 18 年度の県内の実施総数は現時点では不明であるが、K・リーダー会が 3 校を担当、実施した。

平成 18 年版かながわ環境白書 - わたしたちの環境 -

広報部 鎌田 裕二

平成 18 年版の「かながわ環境白書」が 2 月に発

行された。県庁第 2 分庁舎 1 階刊行物販売コーナーで入手できる。(1,119 円税込)。県政情報センターや各地域県政情報コーナーや、かながわ県民センターにあるエコ BOX で閲覧できる。全文はホームページでも公開されている。

(<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kankyokei>

kaku/whitebook/2006/contents.htm)

白書の内容は以下の通り。

第1部 神奈川県環境政策

- 1. 神奈川県環境基本計画
- 2. 平成18年度の主な取組

特集記事

- 1. 地球温暖化防止に向けて
- 2. 丹沢大山の自然再生をめざして

第2部 環境の現況と県の取組

大気環境

水環境

化学物質

騒音・振動・悪臭

自然環境

廃棄物

地球環境

環境に配慮したまちづくり

環境への負荷の少ない生活・事業活動

環境教育

県民とのパートナーシップ

第3部 神奈川県率先実行の取組

第4部 市町村の取組 市町村の環境政策について

第5部 資料環境関連の法律・条例・計画等の概要

詳細に知りたい方へ(問い合わせ先、参考資料)
平成17年度における環境行政の歩み
神奈川県における環境問題の変遷
世界・日本・神奈川の環境に関する動きと歴史
市町村環境政策担当部署一覧
環境用語の解説



欧州化学物質規制 REACH について

広報部 長村 吉洋

今年2007年6月1日から欧州では化学物質規制 REACH が発効され、今後約10年間にわたって順次実施されて行く。REACHとは、Regulation on the Registration, Evaluation and the Authorization of Chemicalsの略で、「化学物質の登録、評価、認可に関する規制」という意味である。これに伴い、欧州では化学物質庁(European Chemicals Agency)がヘルシンキに設立される。この規制は、(1)労働者及び一般大衆の健康と安全の改善、(2)環境保護(大気、水、土壌の化学物質汚染と生物多様性への損傷の回避)、そして、(3)競争的、革新的な化学産業の維持、を目的としており、物質(成形品に含まれるものも含む)を製造したり、輸入、上市、および使用する時に、REACH規制の対象となる。登録は、年間1トン以上の物質が対象であり、産業界が物質によるリスクの適切管理を確保することを目的としており、認可は、懸念が非常に高い物質(SVHC: Substances of Very High Concern)によるリスクが適切に管理され最終的に代替されることを確保するためである。



世界に先駆けて欧州でこのような化学物質規制への取り組みが行われるということは、欧州と貿易を行う企業側で必要な対応を迫られることになり、世界的に、とりわけ米国および日本では、このREACH規制をどのようにとらえ、対処して行くかが現在焦点となっている。さらに今後、日米を含め他の諸国家での化学物質規制をどのように行っていくかという問題提起にもなっている。

当初の新しい化学物質政策は、(1)ノーデータ・ノーマーケット原則、(2)立証責任の転換、(3)有害物質の検出、制限、流通からの除去、(4)より安全な物質革新の推進、(5)全化学物質の情報とその公開、(6)規制の単純化、を目的とする大変すばらしいものであった。しかし、化学産業界の激しい反対運動と欧州議会での妥協により、REACH規制はかなり後退してしまったが、最も有害な化学物質をより安全な代替物質に変える枠組みは残されることとなった。とはいえ、適用される量が年間製造量が1トン以上であることや、たとえ、より安全な代替物質が存在しても適切に管理出来ているとされるのならば認可されるなど、抜け穴も存在するため、今後さらなる改正に向けての努力が要求される。

会員の広場

京都議定書発効二周年に思う

エネルギー部会 鎌田 裕二

先日2月16日は京都議定書発効二周年の日であった。日本は基準年である1990年に対して6%のCO₂排出量削減を約束している。その二周年に前後して幾つかの動きがあった。この場を借りて共有しておきたい。

二周年に先立つ2月14日、15日と、環境省らの主催による講演会「すぐそこにある温暖化の危機」が東京都内で開催された。2日目には若林環境大臣からの挨拶（地球温暖化問題は行政単独では解決できないとの主旨）に続き、山本良一（東京大学生産技術研究所）教授らの討論が公開された。山本教授は、既に我々は「地球温暖化地獄の一丁目」にいる。温暖化対策は過去の世界大戦と比較される世界的な規模の戦いである。

京都議定書の目標は当然であるが長期的には2050年までには70%から80%の二酸化炭素排出の削減が必要であること等を指摘した。また、今夏の参議院選挙では各党が「環境マニフェスト」を提示すべきであるとの意見を表明した。

2月上旬にIPCC第4次評価報告書第1作業部会報告書の政策決定者向け要約が公開され、日本では気象庁がその暫定訳版を公開した。要約では「1750年以降の人間活動は、世界平均すると温暖化の効果を持つという結論の信頼性はかなり高い」と指摘し、2100年の気温上昇は最大6.4度であると予測している。科学による地球温暖化の仕組みの理解が進み、その進行が人間活動によることは、まちがえがなさそうである。（全文は

<http://www.data.kishou.go.jp/climate/cpdinfo/ipcc/ar4/index.html> を参照）

1月下旬より、アル・ゴア前米国副大統領が制作した映画「不都合な真実」が日本で公開された。映



画はヒットし、同じ作者による同題名の書籍（日本語版）は15万部売れたそうだ。その波及効果であろうか、大衆紙の週間現代（3.10号 緊急大特集！ 温まる地球 「不都合な真実」の世界）や、週間ポスト（3.9号 「地球温暖化クライシス」）に特集記事が掲載されたことは、広く国民へ問題を伝える点で大変意義のあることだと思う。「不都合な真実」はアカデミー賞（ドキュメンタリー長編賞、歌曲賞）を受賞し映画、すなわち地球温暖化の問題の認知度はさらに上がったことであろう。

今年は2007年。京都議定書第一約束期間（08年から12年）の開始まで一年を切った。残念ながら、日本国内のCO₂排出量減少の兆しは感じない。

アル・ゴア氏は「地球温暖化問題は政治的問題ではなく、モラルの問題だ。全世界の人たちが気候変化の危機に対して、行動への意思を持とう」と述べているが、彼は1997年当時「京都会議」でCO₂排出削減への数値目標を先進各国から引き出した立役者と言われ、現在は「不都合な真実」を啓発している政治家である。日本では環境問題対策は行政対業界・国民の課題との印象を受けることがある。環境問題を専門的に扱う政治家が日本にいたのだろうか？行政は政治に従うだけである。政治からも更に環境問題に取り組むことが必要であると思う。そのためには有権者である我々が、自主的、実践的な環境保全活動に加えて、将来を見据えている政治家を選択することも必要であると感じる。

会員の広場

CO₂ 免罪符が出回る日は来るのか？

長村 吉洋（川崎市）

Chemical & Engineering News, 85, 31 (2007年2月19日号)によると、個人レベルで排出した二酸化炭

素相当量を、自然エネルギー利用の開発や植林事業あるいは、工場の効率化などによって代替するというCO₂排出相殺事業が、すでに欧米では始まっているようである。京都議定書によって定められた排出権取引やCDMは国家間の温暖化ガス削減対策として実施されているが、これを個人レベルでも行おうというもの

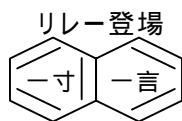
で、自分が排出した CO₂ の相殺分(offset)を購入するという一種、免罪符的ビジネスである。飛行機に乗って旅行した分とか、自動車を使った分とか、暖房や電気を使用した分など、排出した CO₂ を相殺するために、CO₂ 1 トン当たり \$5 から \$30 で相殺分を販売している会社はいくつもあるらしい。



環境意識の高い人々は、自ら出した CO₂ に対して責任を持つようとして、環境を汚染した罪から放免されることを願って、このような CO₂ 相殺分の購入をするのかもしれない。典型的な米国人が排出する CO₂ を相殺する費用は年間で一人当り \$200 程度ですむという試算もあるようだ。しかし、現時点では、こ

の CO₂ 相殺分の計算が国際的に充分保証されたものとはなっておらず、樹木による CO₂ 吸収量についても、それが育った後どうなるのかについて不確定な部分が多いため、お金をどぶに捨てるようなことにもなりかねない。

このような CO₂ 相殺分を購入するというビジネスの是非は別にして、国であれ企業であれ個人であれ、排出した CO₂ に対する責任は持つべき時代になってきた。環境税あるいは炭素税の導入が最も手っ取り早いとは思われるが、CO₂ を出したことに対する罪悪意識を、地球市民としてすべての人が持つようになる時代が到来することを期待するのは、無理なのであろうか。



環境の優先課題は？

稲田 俊生（東京都中央区）

2 回生の稲田です。10 年ほど前、「～連絡会」と称していた頃に数年事務局をさせていただきました。「～リーダー会」となってますます発展していることをうれしく思うと同時に、安丸代表、鎌田部長らのご尽力に感謝申し上げます。

最近、環境に関して思うのは、「優先課題は何？」ということです。私が環境問題に関心を持ち始めた 1990 年代、「環境問題は世代間の問題」と言われていましたが、近年の温暖化が原因といわれる気候変動から見ると、自世代の問題といわざるを得ません。

優先度を考えさせられる例を 2 つ挙げます。近年の異常気象による熱波・洪水などで数百人～数千人の犠牲者が出た、といったニュースをしばしば聞きます。一方、数年前に TV 報道ははじめ世論が盛り上がったダイオキシン類ですが、国内で死に至った報告は聞いてません。通常の 6000 倍の血中濃度のコーシェンコさんもウクライナの大統領をしています。以前から人間はダイオキシン類にさらされていたのですが、世論が盛り上がったため、厳しい基準値が設定され、産業界も脱ハロゲン化で相当な努力を強いられました。本会も当時、三浦半島の合宿で、行

政の方を講師に招いてダイオキシン類の勉強会を行いました。

産業技術総合研究所の中西さんらのグループが、要因ごとの日本人の「損失余命」を推定しています。「損失余命」とは、ある要因によって寿命がどれだけ短くなっているかを示すものです。それによるとダントツなのは喫煙の数～数十年です。次に、交通事故が男：0.38 年、女：0.16 年。順次、ディーゼル粒子が 14 日、受動喫煙が 12 日、ラドン（線）が 9.9 日。ホルムアルデヒドが 4.1 日、ダイオキシン類が 1.3 日、カドミウムが 0.87 日、……。ダイオキシン類以下の物質の損失余命を全部足しても、ラドンの 9.9 日に及ばない結果となっています。

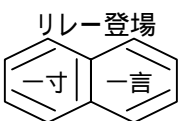


人類・生態系への影響の視点で見ると、間違いなく優先課題となるのは、温暖化防止ではないかと思えます。ほんとうに「不都合な真実」ではありません。環境課題はたくさんありますが、限られた時間、コスト、労力をどこに使うべきかを自分の頭で考えることが必要だと思います。

最後に、環境とは直接関係ありませんが、愛煙家の皆様、「寿命確保のため、吸いすぎに注意しましょう！」

次は、2 回生の上野さんをお願いします。

思いは、「地球」 しかし、実際は「足元」 から

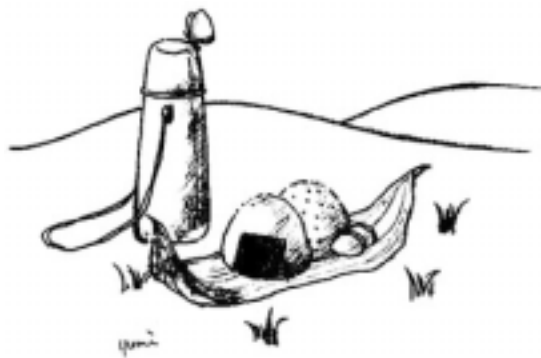


内田 善久（厚木市）

「毎日温かいですね。」が挨拶代わりとなった。今年の冬でしたが、春の気配と共に一転、今度は観測史上最も遅い初雪に見舞われ、桜の開花宣言も?? 最近では小学生でも知っている、地球温暖化、環境問題。株式市況でも環境関連銘柄がもて囃され、ついには、自動車排ガス、原子力関連までも

が環境関連と言われる程です。要は、地球規模での行詰感が蔓延しているのでしょう。日本でも将来、東京の気温が宮崎と同じになり、本州でりんごができなくなり、海岸線の上昇で国や地域自治体のデザインまで変えなくては行けないであろうとも言われ始めました。地球規模では、熱帯や砂漠はより過酷に、今の農地は砂漠化し、一方現在の寒冷地が、人の適生地となる為に国力や人の流れが大きく変わって行くのではないかと、思います。まあ 100 年以上の先の話ですが…。こんなことを考えながら、厚木の町を見ています。駅前のごみ収集はやっと営業ごみとして回収されるようになり、花火大会やお祭りの際のごみも次の日まで散乱している事がなくなりました。これは来場者、地域ボランティア、行政の力が一致した結果ではないかと、思います。相模川の不法投棄も管理体制の強化により以前より激減し、それにつれて河原での生活者も少しずつ減っているようです。少しずつではありますが良くなっている

事は、評価できると思います。近くの大学で行っている、「環境ボランティア論」の授業も「医療・福祉・環境」を軸に毎年少しずつ内容を変え、また狩野さんや地域の仲間にも支えられ、お蔭様で5年目を迎えました。皆で楽しくやれた事がここまで続いた一番の要因ではないか？と思い、感謝しています。次は厚木繋がりです。松本さんに原稿をお願いしようと思ひます。どうぞ宜しくお願いいたします。



掲示板

広報部からのお知らせ

長年に渡り広報部や部会で大活躍をされている原園信夫さんがご転勤されることになりました。今までのご活躍に大変感謝するとともに、新天地での活躍を祈念します。皆様が読まれているこの会報も、毎号、原園さんの大活躍により停滞なく発行、発送されています。

広報部活動への参加を皆様へお願いします。今後も継続的に会報を発行していくためには広報部員の補強が必要です。最初は発行作業日（半日程度）への参加だけでもかまいません。皆様のご支援とご協力によって、会報は初めて成立します。

ご参加いただける方は広報部 鎌田までご連絡ください。

編集後記

3月11日金沢に行った。兼六園の有名な雪吊りも今年は無用の長物で、1月にまったく雪が降らなかったのは観測史上初めてのことだった。この日は急に吹雪くが、すぐにお天道様が出、また吹雪くといった妙な天気だった。卯辰山見晴台にほんのり雪がかぶっていた。新潟の雪深い小千谷も例年1~2m積もっているのだが、今年はやっと40cm位積もったとのこと(3/14現在)。温暖化の影響とは言えないというが、着実に温暖化が進んでいることは今年2月1日IPCCで承認された。私たち環境学習リーダーも自ら実践し、こつこつと広めていくことが使命のような気がする。ゴミ減量、資源減量も温暖化防止に寄与していることを再確認して欲しい。

広報部 原園 信夫



発行人：神奈川県環境学習リーダー会

代表 安丸 元一

編集人：広報部長 鎌田 裕二

TEL/FAX 046-272-7021

発行日：2007年4月15日

ホームページ：

http://members.at.infoseek.co.jp/k_leader/